

# 五味文彦先生と 『日本の中世を歩く』



平成 22 年 1 月  
栃木学習センター所長  
鯨井 佑士

栃木学習センター本年度第 3 回の公開講座は 2 月 14 日（日）に放送大学教授の五味文彦先生に「地域の力を歴史から探る」と題してお話をさせていただきます。五味先生については、放送授業のほうで日本史関係の授業、特に「日本の中世」の主任講師をしておられますので、既にご存知の方も多いかと思いますが、先生の最近の著作に触れながら、少しご紹介することにしましょう。

先生は山梨県甲府のご出身です。出身大学は東京大学で、文学部で国史学を専攻されました。学部卒業後は大学院人文科学研究科に入学し、修士課程を終了して博士課程に進みます。博士課程を中退した後は、文学部の助手を務められました。その後、神戸大学と御茶の水女子大学に勤務した後、母校東京大学文学部に戻り、教授となりました。2006 年に東京大学を退職された後、放送大学に赴任され今日に至っています。

先生のご専門は日本の中世史ですが、先生の研究の特色は文学や絵画までを含む多様な資料と考古学の成果を駆使して、日本の中世を広い視野で捉えるところにあります。また、先生は地域の歴史にも多くの関心を抱いておられます。先生の研究業績は、単著だけでも 30 冊を越え、今日、日本の中世史の第一人者という評価を得ておられます。



↑ 日本の中世史の第一人者、  
五味文彦先生

五味先生の著作のうち、一番最近のものを取り上げ、少し紹介してみましょう。昨年 3 月に岩波新書の一冊として発刊された『日本の中世を歩く』という本で、一般の読者を想

定して書かれたものですから、皆さんにもお勧めできます。この本は、北は北海道の上ノ国（かみのくに）から南は沖縄の今帰仁（なきじん）まで、全国 12 カ所の遺跡・遺構を調査したときの経験を紀行・エッセイ風につづり、さまざまな中世の風景をよみがえらせようとしたものです。一見さらっと書かれていますが、内容は深く、味わって読めば、往古の人々の活動の情景がおのずから浮かび上がってきます。



↑五味文彦著『日本の中世を歩く―遺跡を訪ね、史料を読む』（岩波新書）。写真奥は、五味先生の講義もある『日本の中世（'07）』の教材（放送大学）。

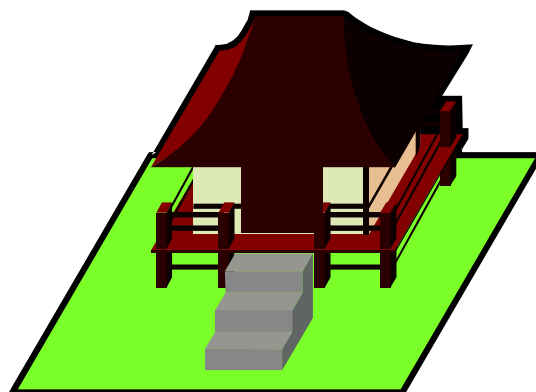
この本の章のなかで、私ども栃木県の人間に一番関係があるのは第 10 番目の「足利に学徒の夢を追う」ですので、そのさわりの部分を少し紹介してみましょう。まず、先生は、学生の論文合宿で足利駅前に宿泊したときの思い出から語り始めます。そして、足利学校に関する資料として、最初にヨーロッパ人宣教師の見聞記を取り上げます。日本にキリスト教を伝えた人物として知られる宣教師フランシスコ・ザビエルがイエズス会の修道士への書簡の中で、当時日本で最も有名で、最も大きな大学が坂東（ばんどう）にあると言及している箇所があります。この学校が足利学校を指すことは他の資料によって明らかなのですが、ザビエルは、当時の日本の学校について、京都五山のほか都の近辺に四

つ、坂東に一つ大学があり、その中でも坂東のものが一番大きいと言っています。

次に、先生は、『鎌倉大草紙』など当時の日本の資料に触れ、足利学校の中興の祖ともいえる上杉憲実（のりざね）という人物を取り上げます。足利学校は、校長には禅僧を当て、学生は僧体をとったにもかかわらず、京都五山及び京都近辺の学校と異なり、憲実の定めた規則に従って仏教ではなく儒学中心の教学が行われたところに大きな特色があると先生は指摘しています。足利学校はこの意味で「公開の大学」であり、そのために日本全国から学生が集まりました。戦乱の世にあっても、学校を中心とした足利の地が平和領域となって発展してきたことが明らかにされます。

さらに、先生は、鎌倉幕府の時代にあつて、なぜ鎌倉ではなく足利に学校が置かれたのかということ、足利義兼（よしかね）という人物に関連させて考察しています。義兼が源頼朝や北条時政に匹敵する人物であったことを明らかにして、あるいは彼には将軍を狙う意図もあったかも知れないと先生は推測しています。義兼に関連しては、彼が建てさせた樺崎寺（かばさきでら）の発掘調査のことが触れられています。

最後に、先生は、足利学校で学んだ学徒たちの出身が北は奥州から南は琉球までに及び、特に九州出身者が多かったこと、彼らがかなりの



主体性を持って活動を行っていたと推測できること、講義内容は儒学を中心に易学・兵学・医学などにも及んでいたこと、さらに学生が問答形式で学習していたことなどを、さまざまな資料を駆使して明らかにしています。このように、戦国時代に足利の地で学んだ学生たちの姿が生き生きと浮かび上がってきます。先生は、この紀行文を「そんな彼らのことを思いつつ、おいしい蕎麦に舌鼓を打った。」と結んでいます。興味のある方は是非原本を読むことをお勧めいたします（五味文彦『日本の中世を歩く―遺跡を訪ね、史料を読む』岩波新書）。

2月14日の公開講座のテーマは広くは「下野・栃木の歴史」ということですが、具体的な内容は当日のお楽しみです。どうか、皆さん奮ってお出てください。お待ちしております。

